

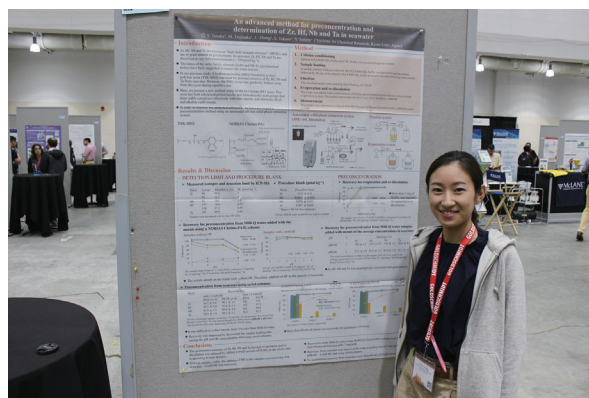
平成 30 年度伊藤光昌氏記念学術助成金 (海外渡航助成) 成果報告書

| | |
|-----------------|--|
| 研究課題番号 | H30-T1 |
| 研究代表者 | 田中 裕里子 |
| 所属・職 (または学年) | 京都大学化学研究所 水圏環境解析化学 宗林研究室修士 2 回生 |
| 渡航目的 | Goldschmidt 2018 (セッション 07i: New Insights in Marine Trace Element Biogeochemistry) 参加のため |
| 渡航先 | ボストン, アメリカ |

8月中旬、アメリカのボストンで開催された地球化学に関する国際会議 Goldschmidt2018 に参加しました。私は、New Insights in Marine Trace Element Biogeochemistry のセッションにおいて、海水中 Zr, Hf, Nb, Ta の精密分析法の開発というテーマで研究成果を発表しました。私にとって初めての国際学会での発表だったため、事前に発表練習を繰り返し行い、聞き手が理解しやすいポスターの作成を心がけました。本番は2時間にわたる発表でしたが、様々な視点から質問や指摘を受け、新たな課題を見つけることができ、大変勉強になりました。また、この発表を通して自身の研究を説明し、理解してもらうことの難しさを痛感しました。

学会中には、様々な研究分野のポスター発表に参加し、多くの人と交流することができました。その中で、見やすく分かりやすいポスター、構成や図表の位置などを工夫しているポスターが見られ、今後ポスターを作成する上で大変参考になりました。

また、口頭発表では海洋の微量金属に関する研究発表を多く聞くことができ、非常に有意義な時間を過ごすことができました。フィヨルドなど自



然特性のある地域で微量金属の研究をされている方や、1元素について深く考察し、研究されている方がとても印象的でした。そして、興味を引くような発表の仕方や聞き手が見やすいスライドの作り方などを学ぶことができ、今後自身のプレゼンテーションに活かしていきたいと思いました。

今回、国際学会に参加し大変有意義な経験ができました。自身の研究発表を通して、他大学の研究者との交流ができ、さらに多くの知識を得ることができました。また、この経験から英語を扱う能力が必要不可欠であることを強く感じました。最後に、このような貴重な機会を与えてくださった先生方、海洋化学研究所の皆様には厚く御礼申し上げます。